まちのアルバム

自分をうつし出す墨の世界

▼1月11日　市民交流センター

墨彩画サークルは、毎月第１・第３水曜日に活動されています。普段は一人ひとりが自由にテーマを決めますが、この日は今年の干支にちなんで「子うさぎ」をテーマにし、描きました。

真剣な表情で一線一線を描く生徒の皆さん。墨特有の力強さに水彩絵の具の優しい彩りが加わり、子うさぎの温かみと愛らしさが感じられる作品ができあがりました。

「内面が充実していないと墨の世界を描くことは難しい。」と語るのは、指導者の布施光雪さん。描いているときの自らの内面が墨の線に顕著に表れるそうです。

レッスン中は皆さん真剣な表情でしたが、休憩中は笑顔で会話を楽しみ「教室での会話も大事な時間です。」と話しておられました。

歴史の小窓
―学芸員のメッセージ―

221

歴史民俗博物館　☎587-4410、Fax587-4413

戦国騒乱と永原氏

戦国時代の中ごろ、野洲郡では永原氏という一族が力を持ち始めます。

この永原氏は、野洲郡永原（野洲市永原）に拠点を置いた武士で、近江守護・六角氏の家臣だった馬淵氏に仕えていましたが、やがて永原氏は勢力をのばし、六角氏に直接仕えるようになります。

永原氏は野洲にいくつか城を持っていましたが、現在の祇王小学校のあたりにあった永原城は、堀で囲まれた大規模な平城で、永原氏の本拠地といえる城でした。城山（野洲市小堤　標高286m）にあった「小堤城山城」は永原氏の山城で、今でも頂上付近から北の尾根にかけて石垣が残っています。

永禄11（1568）年９月、織田信長が近江へ侵攻すると、永原氏の一部の者が信長に仕えるようになります。その中では永原飛騨守が信長のもとで合戦に参加したことが知られています。

（市史専門調査員　川原　吉貴）

永原城伝「本丸」の発掘調査時に見つかった石垣

※博物館は３月下旬まで防災設備等更新工事に伴い休館しています。
休館中も通常休館日（月曜日、祝日の翌日）以外は、これまでどおり問い合わせなどの窓口業務は行っています。